

## 日本安全教育学会研究集会石巻ミーティング 2017「東日本大震災からの復興とこれからの学校安全」を開催しました(2017/5/12-14)

テーマ：学校安全、防災管理、防災教育、震災復興  
 場所：石巻市桃生公民館文化ホール（主会場）

5月12日（金）～14日（日）の3日間にわたり、石巻市桃生公民館文化ホールを主会場として、日本安全教育学会研究集会石巻ミーティング 2017「東日本大震災からの復興とこれからの学校安全」を、防災教育国際協働センターの共催で開催し、佐藤健教授（情報管理・社会連携部門）が実行委員会の委員長を担いました。所内からは、源栄正人教授（災害リスク研究部門）、定池祐季助教（情報管理・社会連携部門）、土屋修技術補佐員（同）が参加し、3日間で延べ235名が参加しました。

12日（金）のプログラムは、第1部では、「学会・大学の社会的責任～研究成果の社会還元～」をサブテーマに、学術の研究者側から教育の実践者側に対して、学校安全の管理や教育に関する最新情報の提供機会とするとともに、石巻市立学校の防災主任等の悉皆研修としても位置付けられました。第2部では、八幡家の阿部紀代子女将によるミニレクチャーとして、東日本大震災の発災直後から展開された情報や物資の共有のためのコミュニティ活動や、コンパクトシティ いしのまき・街なか創生協議会による復興まちづくりの取り組み等が紹介されました。

13日（土）のプログラムは、第3部として、（公社）みらいサポート石巻の協力を得て、石巻津波伝承 AR アプリを用いた防災まちあるきを実施しました。また、第4部は「石巻と東北の学校防災最前線」をサブテーマとし、第1部とは逆に実践者側からの学校や地域のニーズについて研究者を含む参加者が広く共有する機会となりました。石巻を含む東北各地の8名の学校防災、地域防災の実践者からの事例報告に続いて、桜井愛子准教授（東洋英和女学院大学）と藤岡達也教授（滋賀大学）が座長となった総合討論により、各事例報告の理解を深めることができました。さらに、第5部は、大森信治郎氏（石巻専修大学特命教授）によるミニレクチャー「被災地の地域住民と来訪者の変遷」が開催され、震災ボランティアなどの外部から被災地への来訪者の変遷や、震災学習ツーリズムに関する話題提供がありました。

14日（日）のプログラムは、「東日本大震災の慰霊・そして復興」をテーマに、大川小学校の慰霊巡見等が実施されました。

3日間のプログラム全体を通して、東日本大震災からの石巻を含む東北の復興状況を共有することができたとともに、被災地の内と外の関係者間でこれからの「学校安全の推進」に向けた情報共有や意見交換を実現することもできました。石巻ミーティングをきっかけに、今後の学校における安全管理、安全教育等のさらなる充実と協働の広がりが期待されます。



実行委員長の挨拶



会場の全体風景



阿部紀代子氏の講話



震災伝承スペースつなぐ館



桜井座長による総合討論



阿部洋己氏による発表



大森信治郎氏の講話



大川小学校への慰霊巡見